

平成28年を迎えるにあたって(永平寺を訪れて思ったこと)

平成28年1月25日(月)

茨城県立鬼怒商業高等学校 教頭 宇都木 直之

教頭便り

昨年の暮れ、家族で北陸を訪れる機会に恵まれました。月日の経つのははやいもので、いつまでも子供だと思っていた息子・娘たちも次々と成人を迎え、家族全員が顔を合わせることも、年に一度か二度あるかないかとなりました。

今年の冬は暖冬と言われる通り、北陸と言えども一面の雪景色の予想とは裏腹に、雨また雨の年末となりました。特に雨のひどかったのが最終日の永平寺でした。NHKの「行く年来る年」の撮影準備の様子を直に見て、いよいよ新しい年を迎えるのだと身が引き締まる思いがしてきました。永平寺は20年以上も前に、最初の赴任校の修学旅行で訪れて以来2度目の見学でしたが、きびきびと動き回る雲水たちの様子は当時のままでした。

今回特に印象に残ったのが「永平寺パネル展」といって壁に一つ一つ掲げられた、道元禅師からのメッセージと題した14の言葉の中の一つでした。それは次のようなものでした。

人生に定年はない
人生に定年はありません
老後も 余生も ないので
死を迎える その一瞬までは
人生の現役です
人生の現役とは
自らの人生を
悔いなく生ききる人のことです
(永平寺パネル展より)



このメッセージを見て思うことがありました。ここ数年この「定年」という言葉が身近に感じられるようになってきたからです。定年になったら次の人生をどうするか、ということがよく話題になります。でもよく考えてみれば、定年後の人生もこのメッセージの言うように人生であることには変わりありません。

普段私たちは自分が明日生きていることに疑いを持ちませんが、私たちの明日の命を保証するものは何もありません。だとするならば「いつ自分の人生が終わっても悔いのないように、その時その時を精一杯生きなさいよ」というのがこのメッセージの意味だと思いました。人間が幸せに生きるとはどういうことかをこのメッセージは伝えてくれます。「自らの人生を悔いなく生ききる人」を目指して、今年も気持ちを新たに組みたいと思います。